大分高専野球部員の諸君へ

　新型コロナウイルスの感染症が猛威をふるい、国内だけでなく全世界でかってない影響を与えています。産業の停滞、経済の縮小、我々自身の生活・教育環境、スポーツの練習方法、観戦の在り方など、色々な分野に大きな変革をもたらしています。
　かって、学生野球にも大影響を与えた事変がありました。それは、第二次世界大戦の勃発です。当時の全国高等学校野球大会の中止、学徒出陣による東京六大学野球の中止等です。今の状態に非常に似通っていると考えます。しかし、戦地より生き延びて帰ってき先人達は、産業を復興し、経済を再生し、野球を初め多くのスポーツを復活し、現在のような日本を築き上げてきました。その一翼を高専の卒業生は担っています。
　私が言いたいことは、軽率な行動をひかえ、心身を鍛え、コロナ禍に罹患しないで頂きたいということです。このことは私自身への警告でもありますが、世界が感染症を克服した先には、きっと新しい世の中が待っているはずです。
　さて、野球の話に戻りますが、昨年高専チームが全国大会で準優勝を成し遂げたことは、ＯＢ会に喜びをももたらしました。
ただ、この試合を現地で観戦していた先輩の一人が、寂しい思いをしたそうです。それは、スポーツマンシップ「凡打でもしっかり走る、攻守の交代時もベンチまでは全力走行する、下手でもいい、負けてもいい、しかし全力を尽くして野球をやっているのか？」とういう疑問でした。スポーツマンシップの精神、行動は、社会に出ても基本です。
　スポーツは勝敗に拘ることは必要ですが、それだけではありません。学生時代に勉学と共に肉体と精神を鍛え社会に出て行くことは、長い人生の中で極めて大事なことです。それを身に染みて分っているのが我々ＯＢです。だからこそ、我々ＯＢは現役の皆さんを応援しているのです。今年は残念な年ですが、最後まで勉強に野球に最善を尽くして頂きたい。
　最後に、来春卒業する五年生の諸君に、一言お願いをします。
それは、卒業時に「球友」という野球部の小冊子への投稿を是非ともお願いしたいということです。昨年から復活し実施していますが、残念ながら全員からは投稿してもらえませんでした。「球友」は、卒業後、歳を重ねて改めて見ると大変意味のある大分高専野球部の卒業論文です。これは自分だけでなく、先輩、同期、後輩にも通じます。是非、今年は全員の投稿をお願いします。このことが、ＯＢ会の輪を広げることにも繋がると信じ

ております。
　お互いに、コロナを乗り越え、秋にまたお会いできることを期待して。

令和２年７月
大分高専野球部ＯＢ会
会長　安藤文紀